

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	クントロ ボガ アンドリ
題 目	小規模農家とアグリビジネスの協力調整による農業発展 —インドネシアにおける契約農業を事例として— (Promoting Agricultural Sector through Collaboration between Smallholder Farmers and Agribusiness Firms: A Study on Contract Farming System in Indonesia)
<p>インドネシアのような天然資源の豊富な開発途上国にとって、アグリビジネスは潜在能力の高い産業である。しかしながら、この部門の発展には主に2つの大きな問題がある。それは小規模農家数が増加していることと、多様な流通業者による小農民の搾取を最小限にとどめる農協が非力であることである。一方、市場経済や貿易自由化の方向で進み続ける開発途上国では、地方では新しい取引や市場機会の利益を得るような重要なニーズが生じている。世界各地の開発途上国には多くの契約農業の成功事例があり、インドネシアにおけるこの種の契約農業システムを再吟味することを鼓舞している。そこで、本研究では有益な契約農業の完全な形態を把握する為に、また、このシステムを広く理解する為に、この課題について深く研究した。検討されなければならない本質的な課題は、インドネシアには農業経営や農産物商品のタイプに係る特徴と関連して多様な契約農業が存在しており、低い取引コストに役立ち、小規模生産者を支援できるシステムが検討されなければならない。</p> <p>東ジャワの野菜生産者に関する事例研究では、この契約タイプが労働集約的農業経営であることを示した。この契約システムが、女性労働力や雇用労働の増加を導いており、そのシステムが現存する村で、いくつかの増幅する効果をもたらしたことを指し示している。その研究は、農産物販売の保証と同様に、このシステムが価格不安定から小規模農家を保護するのに成功していることを証明している。第2の事例研究では、小規模酪農家と地元の乳製品加工業者間の契約農業が、この地域の参加メンバーに、彼らの小さなビジネス単位で運営し発展することを容易にし、そのチャンスを与えていることを証明している。比較的高い生産者価格が、その酪農業への参入とその発展へ農民をひきつける上で、この産業において最も重要な要素であることを示している。第3の事例研究では、備蓄を満たすために、ブロッグが農民協同組合か精米業者との契約販売システムを通して米を調達していることを明らかにしている。その協定は、稲作農家から米を調達する為に、買い手であるブロッグと集荷者である協同組合か精米業者との間で取り交わされている。彼らは完全に価格リスクを取り除くことができる固定先払い価格で販売契約をしている。このシステムは、米がその国の経済的・政治的安定に重要な役割を果たして以来、ずっと政府によって管理されてきた。</p> <p>以上、前述した実証的研究から見られるように、契約農業システムはその地域でうまく稼働し、農産物、資本、土地、労働力、情報の不完全市場を取り除くように作用し、加工、技術普及、農業システム管理への投資を必要とする地方の生産活動でよりよい調整を導き、そして取引コストを減らしている。このシステムは、生産者の所得を引き上げる一方で、また、地方経済における雇用、基本的施設整備、市場拡大において、積極的に増幅する効果を創造している。したがって、アグリビジネス企業、小規模農民、農民グループそして農民協同組合間のパートナーシップを正道に戻すことは、将来、骨の折れる問題に直面した場合、インドネシア農業にとって重要な方策であると思われる。</p> <p>多様な政策が、以上の契約農業システムに関する分析から提起できる。適当な農民グループあるいは農民協同組合の組織を増強することは、小規模農民が契約農業に加入促進するのに必要である。さらに、政府がこのシステムを支持することは、国内のアグリビジネスの発展を促進するものと思われる。このシステムの参加者全てが独立しなければならないし、契約システムはたえず能力、組織や施設を高めることが必要である。政府は、誠実に農民へ対応し、長期の協力協定を結ぶ会社が契約農業へ参入投資することを保証する重大な役割を果たさなければならない。政府は農民による組織づくりやアグリビジネスとの交渉において、農民に対し援助しなければならない。グループで取り組む契約農業に対する法律による保護は、悪い効果をもたらす契約から、農民を保護することを考慮しなければならない。</p>	

## 学 位 論 文 要 旨

氏 名	KUNTORO BOGA ANDRI
題 目	Promoting Agricultural Sector through Collaboration between Smallholder Farmers and Agribusiness Firms: A Study on Contract Farming System in Indonesia (小規模農家とアグリビジネスの協力調整による農業発展 ーインドネシアにおける契約農業を事例としてー)

The agribusiness is a potential sector for developing the country with huge natural resources like Indonesia. However, there are two main challenges to develop this sectors that is the increasing numbers of smallholders farmers and inability of agricultural cooperatives to minimize the exploitation of small farmers by various market intermediaries. On the other hand, as developing countries that continue on the path of market economy and liberalization, there is an urgent need to bring the benefits of new trade and market opportunities to rural areas. The success of many farms contract in developing country in other part of the world encourages to review this kind of institution in Indonesia. Therefore, in order to get the perfect figures of beneficial contract farming scheme and to understand this system profoundly, we conducted deep study on this subject. The essential thing that has to be considered is that there are many types of contract farming exist in Indonesia, which associated with the characteristic of the types of farming and commodities. Therefore, the system which could serve lower transaction costs and help small-scale growers in Indonesia must be considered.

In the case study of vegetables growers in East Java, it was revealed that this contract type is labor-intensive farming. The contract led to increased use of female labor and employment of hired labor that indicating the contract had some multiplier effects on the villages where it was extant. The study has proven the successful of this system to protect smallholder farmers from price volatility, as well as marketing product guarantee. In the second case study, it was revealed that contract farming between dairy small milk producer and local processing company has facilitated and offered opportunities to the participants in this area to carry on their small business unit and to develop. It is showed that a good farm gate price is the most important factor in this industry to attract farmers to enter and develop the dairy business unit. The analyses of the third case study found that in order to fulfill the stock, BULOG (National Food Logistics Agency) procured rice by contract marketing system with farmers cooperative or rice miller. The agreement is between BULOG as a buyer and cooperative or miller as a collector, to procure rice from rice farmers. They used marketing contract with the fixed forward price that can completely eliminate the price risk. This system managed by the government since rice commodity plays an important role in both economical and political stabilities of the country.

From the above mentioned empirical studies, it is conclude that the contract farming system perform in the areas, help to remove market imperfections in produce, capital (credit), land, labor, information and lead to better adjustment of local production activities which involve investment in processing, extension, agriculture's institution management, and reduced transaction cost. Besides raising grower's incomes, this system may also create positive multiplier effects for employment, infrastructure, and market development in the local economy. Therefore, straightening the partnership between agribusiness firms, smallholder farmers, farmer group and farmer cooperative is an important method for Indonesian agricultural sector to face the tough challenge in the future.

A number of policy implications are flow from the system described above. Build up appropriate farming group or farmer cooperative organization is necessity for smallholders who entering the contract. The government has to support this system and use as a tool for developing domestic agribusiness firms. All the participants of this system must be independent and allow the contract to change over time as capability, institutions and infrastructure develop. The government has a vital role to play in ensuring that companies proposing to invest in contract farming are bona fide and are planning long-term partnership arrangements with farmers. The government has to assist farmers in their ability to organize and negotiate with agribusiness firms. Legal protection for contract growers as a group must be considered to protect them from ill-effects of contracting.

学位論文審査結果の要旨	
学位申請者 氏 名	KUNTORO BOGA ANDRI
審査委員	主査 佐賀大学 教授 白武 義治
	副査 佐賀大学 教授 小林 恒夫
	副査 鹿児島大学 教授 岩元 泉
	副査 琉球大学 教授 仲地 宗俊
	副査 鹿児島大学 教授 秋山 邦裕
審査協力者	
題 目	Promoting Agricultural Sector through Collaboration between Smallholder Farmers and Agribusiness Firms: A Study on Contract Farming System in Indonesia (小規模農家とアグリビジネスの協力調整による農業発展—インドネシアにおける契約農業を事例として—)
<p>インドネシアのような天然資源の豊富な開発途上国にとって、アグリビジネスは潜在能力の高い産業である。しかしながら、インドネシアにおけるアグリビジネスの発展には主に2つの大きな問題がある。それは、近年、小規模農家数が増加していることであり、多様な流通業者による小農民の搾取を最小限にとどめる農協が非力であることである。一方、市場経済原理の導入や貿易自由化の方向で進み続けており、新しい取引によって市場利益を得ることができるチャンスも生じている。近年、世界各地の開発途上国では、契約農業の多くの成功事例が報告されており、インドネシアでもこのような契約システムの分析が重要な課題となっている。</p> <p>そこで、本研究ではインドネシアにおいて農家の大半を占める小規模農家とアグリビジネスによる有益な契約農業の形態に着目し、この契約システムを広く分析する為に、典型的に「Informal developer」「Intermediary」「Multipartite」の3タイプの事例を取り上げ、実証的に検討している。検討すべき本質的な課題は、インドネシアには現在、農業経営や農産物商品のタイプや特徴と関連して多様な契約農業が存在しているが、低コスト取引に役立ち、小規模生産者を支援できるシステムの解明であるとしている。</p> <p>第1の「Informal developer」タイプの東ジャワにおける野菜生産者と加工業者による契約農業に関する事</p>	

例研究では、この契約システムが労働集約的であり、女性労働力の活用や雇用労働の増加を促進し、さらに、零細農家の農産物販売を保証し、低く不安定な価格から当該農家を保護するのに成功するなど、相乗効果をもたらしていることを明らかにしている。第2の「Intermediary」タイプの小規模酪農家と地元の乳製品加工業者間の契約農業に関する事例研究では、当該地域の参加メンバーに対し、零細なビジネス単位でも経営発展を可能にし、そのチャンスを与えていることを明らかにしている。また、この契約システムによって形成された比較的高い生産者価格が、酪農部門への参入とその発展を促進する最も重要な要素であることを明らかにしている。第3の「Multipartite」タイプの稲作農家と協同組合及び精米業者と BULOG(米の調達配給システム)による契約農業に関する事例研究では、食料備蓄のために、BULOG が農業協同組合か精米業者との契約システムを介して米を調達していることを明らかにしている。その協定は、稲作農家から米を調達する為に、買い手である BULOG と集荷業者である協同組合か精米業者との間で取り交わされている。この契約システムは固定先払価格で販売契約をしており、価格変動リスクを取り除くことができる。BULOG はインドネシアの経済的・政治的安定に重要な役割を果たしており、将来も政府によって管理されるべきものであることを明らかにしている。

以上のような実証研究によって、多種の契約システムはその地域や作目によって効果的に適用されており、農産物、資本、土地、労働力、情報の不完全市場の弊害を取り除くように作用し、加工、技術普及、農業システム管理への投資を必要とする地方の生産活動でよりよい調整を導き、そして取引コストを減らしていることを明示した。また、この契約システムは、生産者の所得を引き上げるとともに、地方経済における雇用、基本的施設整備、市場拡大によって経済効果を発揮していることも指摘した。このことから、小規模農家と農民グループや農業協同組合とアグリビジネスがパートナーシップを構築することは、インドネシア農業にとって重要な方策となることを提示した。

以上の契約システムに関する分析から次の諸点を提示している。第1に、農民グループあるいは農業協同組合の組織を増強することは、小規模農家が契約システムへの加入を促進するのに必要である。さらに、第2に、政府がこの契約システムを支援することは、小規模農家の経営的自立を促進し、国内のアグリビジネスの発展に不可欠である。そのために、第3に、政府は、アグリビジネスが長期の協定を結び契約農業へ参入投資することを保証し、農民による組織づくりやアグリビジネスとの交渉において、農民を援助し、契約農業に対する制度や法律整備によって、農民を保護するよう配慮しなければならない。

本研究は、インドネシアにおけるアグリビジネスの発展にとって契約農業の重要性を克明な実証的研究によって明らかにした。インドネシアの契約農業を、はじめて詳細に類型化し実証的に検討したところに本研究の価値があり、提示されたシステムとそれらの機能を明らかにしたところに新知見がある。そこで、本論文は、博士（農学）の学位論文として十分に価値あるものと判定した。

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏 名	KUNTORO BOGA ANDRI
審査委員	主査 佐 賀 大学 教 授 白武 義治
	副査 佐 賀 大学 教 授 小林 恒夫
	副査 鹿児島 大学 教 授 岩 元 泉
	副査 琉 球 大学 教 授 仲地 宗俊
	副査 鹿児島 大学 教 授 秋山 邦裕
審査協力者	
実施年月日	平成19年7月21日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) <span style="float: right;"><input type="checkbox"/> 口答・筆答</span>	
<p style="text-align: center;">最終試験結果の要旨</p> <p>上記の主査および副査の5名は、平成19年7月21日の公開審査会において、学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、その内容および関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（農学）の学位を受けるに必要なかつ十分な学力ならびに識見、研究能力を有すると認めた。</p>	

学位申請者 氏 名	KUNTORO BOGA ANDRI
<p>[質問1] 論文中にあるアグリビジネスとアグロインダストリの違いを説明してください。どのように定義しているのですか。</p> <p>[回答1] アグリビジネスは播種からマーケティングまでの全体のシステムを意味しており、アグロインダストリは収穫後の加工、包装等のプライベートセクターであり、区別して使用している。</p> <p>[質問2] 契約農業の契約内容に技術普及が入っていますが、それはどのような仕事内容になっていますか。また、誰がそれを担いますか。</p> <p>[回答2] 普及される技術は作物や家畜の肥培管理技術であり、加工会社の職員や農協の職員がその普及を担っている。</p> <p>[質問3] Intermediaryのタイプでその3構成員はだれですか。</p> <p>[回答3] 農家、加工会社、その中間にある農協か農家グループである。</p> <p>[質問4] IntermediaryのタイプとMultipartiteのタイプとの違いは何ですか。この場合、BULOGはチャンネルと理解していいのか。</p> <p>[回答4] Intermediaryのタイプは3構成員であるが、Multipartiteのタイプは構成員はさらに多く、この中には政府やNGOも加わっている。Multipartiteのタイプの中で、BULOGはひとつのチャンネルであり、米を契約で購入仕入れする機関である。</p> <p>[質問5] 小規模農家は特定地域に集団で存在するのか。それとも大規模農家と一緒に混在しているのか。小規模農家が多い地域で調査を行ったのか。小規模農家の多い地域の問題を分析しているのか、小規模農家の問題を分析しているのか。説明してください。</p> <p>[回答5] インドネシアでは、特に稲作地帯であるジャワでは0.7ha以下の小規模農家がほとんどである。この小規模農家の問題を分析している。</p> <p>[質問6] 野菜地帯では農家グループが契約農業を行い、個別農家は契約農業を行っていないのか。農家グループの契約は文書契約になっているのか。その場合、誰が契約のサインをし、リスクを負うのか。</p> <p>[回答6] 文書契約は加工会社とグループリーダー間で行われており、グループリーダーと農家間では口頭契約である。契約のサインはグループリーダーが行うが、契約のリスク負担は農家がかかっている。</p>	

〔質問7〕米や酪農の契約農業と野菜の場合の契約農業は、小規模農家にとっての意義が違うのではないか。

〔回答7〕米や酪農の契約農業と野菜の場合の契約農業は、小規模農家にとっての意義は同じであり、そのメリットもデメリットも小規模農家が受けることになる。

〔質問8〕サトウキビの場合も米のBULOGと同じ機能を有する機関があり、契約農業のあり方も類似しているのか。

〔回答8〕同様な機関があり、類似している。

〔質問9〕国土面積の6%のジャワに総人口の60%が住んでいるのか。他の島へ移住することは難しいのか。島によって生活文化が異なり、その理由で移りたくないのか。

〔回答9〕ジャワに人口は集中している。他の島への移住は、他の島のインフラやビジネスが十分に整備し進出していないのでまだ十分に進んでいない。

〔質問10〕小規模農家が契約農業を行えば経営内容が改善されていると説明している。契約すれば収量や品質が良くなったとっている。その技術的根拠の説明が不足していると考えるがどうか。契約してなぜ乳量が増えたのか。牛の種類、管理方法、畜舎の構造などが乳量を押し上げた、といったような技術的理由を述べてほしい。

〔回答10〕3タイプの契約農業の実証的研究から、農家の手取り価格の高さが最も重要であることが明らかになった。この価格が低ければ収量や品質を上げることにはならない。